

— 式典行事 —



第44回
全国育樹祭 北海道
2021

つなごう未来へ この木 この森 この緑

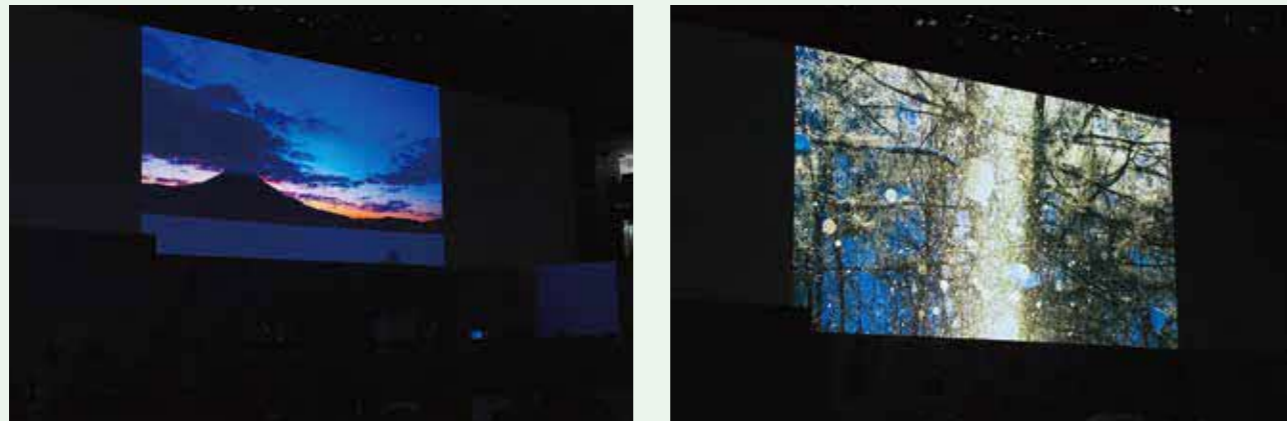
式典行事

令和3年(2021年)10月10日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下に宮邸からWebのライブ配信を御視聴いただく中、札幌市豊平区の北海道立総合体育センター(北海きたえーる)で開催した式典行事では、オンラインを含む約700名の方々が参加され、ビデオメッセージで秋篠宮皇嗣殿下からおことばを賜ったほか、緑化の推進などで功績のあった方々の表彰や緑の少年団活動発表、メインアトラクションなどを通して、北海道発祥の「木育」のすばらしさを広く全国に発信しました。

プロローグ ～ようこそ北の大地、北海道へ～

■北海道の魅力の紹介(映像)

北海道ならではの大自然や豊かな森林の風景を超大型スクリーンにより紹介しました。



■ウェルカムパフォーマンス(映像)

北海道札幌白石高等学校吹奏楽部の皆さんが、北海道にちなんだ明るく元気な楽曲とパフォーマンスで歓迎の気持ちを表しました。



■木育とは

演劇ユニットTEAM NACSのリーダー、森崎博之さんを式典行事のナビゲーターに迎え、木育のオピニオンリーダー、煙山泰子さんとの対談により、北海道発祥の「木育」の特徴を紹介しました。



■北海道胆振東部地震からの復旧・復興支援への感謝のメッセージ(映像)

日本全国から届けられた温かいご支援に対する感謝の気持ちを伝えました。



開会のことば



公益社団法人 国土緑化推進機構
副理事長

前田 直登

三旗入場

北海道警察音楽隊カラーガード隊の先導により、こまおか緑の少年団が国旗、国土緑化推進機構旗、道旗の三旗を手に入場しました。



緑の少年団入場行進

北海道立北の森づくり専門学院生の先導により、北海道の緑の少年団(8団)が元気よく入場行進し、大型スクリーンでは、道内全33団の日頃の活動の様子を紹介しました。



藤の沢小学校小鳥の村少年団
(札幌市南区)



東川町大雪山愛護少年団
(東川町)



野幌小学校愛林少年団
(江別市)



美瑛町十勝岳愛護少年団
(美瑛町)



知床自然愛護少年団
(斜里町)



富良野大麓自然愛護少年団
(富良野市)



トムラウシ少年グリーンクラブ
(新得町)



川湯少年少女グリーンクラブ
(弟子屈町)



阿寒湖グリーンクラブ少年団
(釧路市)



松恵小学校緑の少年団
(恵庭市)



厚沢部町立館小学校緑の少年団
(厚沢部町)



クサンル緑の少年団
(稚内市)



栄浜小学校緑の少年団
(乙部町)



しりうち緑の少年団
(知内町)



うらうす緑の少年団
(浦臼町)



滝川緑の少年団
(滝川市)



京極みどりの少年団
(京極町)



せたな町立久遠小学校緑の少年団
(せたな町)



緑の少年団なかしべつ冒険クラブ
(中標津町)



中茶安別緑の少年団
(標茶町)



ながめま緑の少年団
(長沼町)



いわみざわ花と緑の少年団
(岩見沢市)



江差北小学校緑の少年団
(江差町)



奥尻町立奥尻小学校緑の少年団
(奥尻町)



こまおか緑の少年団
(札幌市南区)



上ノ国町立河北小学校緑の少年団
(上ノ国町)



北檜山小学校緑の少年団
(せたな町)



平取町子ども会育成連絡協議会
みどり会(平取町)



仁宇布緑の少年団
(美深町)



野付緑の少年団
(別海町)



瀬棚小学校緑の少年団
(せたな町)



上札内緑の少年団
(中札内村)



苫小牧緑の少年団「苫東・和みの森っクラブ」
(苫小牧市)

国歌独唱・三旗掲揚

北海道出身の民謡歌手、木村香澄さんによる国歌独唱とともに、日本ボーイスカウト北海道連盟、(一社)ガールスカウト北海道連盟の子どもたちの手により三旗が掲揚されました。



主催者あいさつ



第44回全国育樹祭大会会長
参議院議長

山東 昭子

ここに、2年ぶりとなる第44回全国育樹祭を開催できますことは、関係各位の御尽力の賜物であり、大会会長として深く感謝申し上げます。秋篠宮皇嗣殿下からは、今大会にあたりまして「おこたば」をお寄せいただきましたこと、心から御礼申し上げます。

北海道の総面積の7割に及ぶ森林は、まさに日本随一の大自然を構成しています。そこではあらゆる生物が生まれ、また、山々や湿原がおりなす悠久の景観は、訪れる人を常に魅了し続けています。

今年のテーマである「つなごう未来へ この木 この森 この緑」は、一本の木や森、緑を育む心の大切さを表現しています。森林を守り、育てていく活動の輪が、ここ北海道の地から全国へ、さらに未来を担う子どもたちに広がっていくことを願ってやみません。

新型コロナウイルス感染症は、未だ、我々の生活に多くの支障をもたらしています。この状況を克服し、たくさんの人々が緑あふれる北海道に再び集える日が訪れるよう、私も力を尽くしてまいります。

栄えある表彰を受けられる方々の御功労に心からのお祝いを申し上げますとともに、本日御参加くださっている皆様に、緑あふれる豊かな国土づくりへ変わらぬ御支援をお願いいたし、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ



北海道知事
鈴木 直道

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下に、オンラインにより御視聴いただき、北海道では34年ぶり2度目となる、第44回全国育樹祭を開催できますことは、私ども北海道民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

また、長年にわたる森づくり活動や緑化活動の御功績により、本日表彰を受けられる皆様に対し、深く敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

北海道は、世界自然遺産の知床や大雪山、釧路湿原などに代表される雄大な自然環境や四季折々の美しい景観、日本の食料自給や環境保全に貢献してきた農林水産業、そして、自然との共生を大切にす縄文やアイヌの文化といった世界に誇る北海道の価値を、先人から受け継ぎ、培ってまいりました。

昨年には、アイヌ文化の復興と発展の拠点である民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープンしたほか、本年7月には、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されるなど、北海道独自の文化に対する国内外の関心は、これまで以上に高まっております。

こうした北海道の揺るぎない価値は、トドマツやカラマツ、道南のスギなど多種多様で広大な森林が織りなす、本道の自然環境が育んできたものです。

道では、この豊かな森林の恵みを将来にわたって享受できるよう、計画的な伐採と着実な再生林による森林資源の循環利用に取り組んでおりますほか、多くの道民の皆様、漁業関係者や企業の皆様による持続的な森づくり活動や、昨年開校した「北の森づくり専門学院」における次の時代の林業を担う人材育成など、オール北海道で森林資源の維持・活用に取り組んでおります。

この度の全国育樹祭のテーマは、「つなごう未来へ この木 この森 この緑」です。今回の育樹祭を契機として、森や木の持つ優しさや温もりに親しみ、豊かな心を育む本道発祥の「木育」の取組を一層推進するとともに、こうした取組の輪が、ここ北海道の地から、未来を担う全国の子どもたちに大きく広がることを心から願っております。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力いただいた関係の皆様、そして、御理解と御協力をいただいた道民の皆様、全国の皆様にご心より感謝を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

歓迎のことば



北海道議会議長
小畑 保則

本日、ここ北海道で第44回全国育樹祭が盛大に開催され、秋篠宮皇嗣同妃両殿下におかれましては、本式典をオンラインにより御視聴いただき、私たち北海道民にとりまして、誠に光栄であります。また、全国各地から御参加いただきました皆様を心から歓迎申し上げます。

御承知のとおり、全国育樹祭は、枝打ち、施肥などの育樹活動と普及啓発を通じ、継続して森を守り育てていくことの大切さを伝えるために開催する国民的な行事です。

森林には、水を蓄え、豊かな生態系を育み、自然災害や地球温暖化の防止にも貢献するなど様々な機能があり、私たちの安全・安心な暮らしにとってかけがえのない財産となっています。

北海道では、豊かな森林を未来に引き継いでいくため、北海道命名150年の節目の年となった平成30年に、全国に先駆けて「植樹の日・育樹の日条例」を制定しました。道民一人ひとりが植樹や育樹を通じて、森林や樹木にふれ親しみ、その豊かさや様々な恵みに感謝する心を育みながら、森林づくりを進めているところです。

「つなごう未来へ この木 この森 この緑」をテーマに開催されるこの度の大会が、森林を守り、育てる気運を一層高め、本道発祥の「木育」が全国各地に広がる契機となり、豊かな森林が次の世代を担う子どもたちにしっかりと引き継がれることを心から祈念申し上げます。

結びに、大会の開催にあたり、御尽力いただきました関係者の皆様、並びに本日御参加されました皆様にご心より感謝申し上げます、歓迎のことばとさせていただきます。

秋篠宮皇嗣殿下のおことば (ビデオメッセージ)



第44回全国育樹祭が、全国一の面積を有する豊かな森林に恵まれた北海道において開催されますことを大変喜ばしく思います。

現在、COVID-19の影響により、私たちの日常は様々な場面において制約を余儀なくされております。このことは、森林づくりに携わる方々にも様々な影響を及ぼしていることと推察いたします。

このような状況の中、大会関係者のご尽力により、本日を迎えることができました。私も北海道を訪れ、皆様とお会いすることを楽しみにしておりましたので、今回出席できないことを大変残念に思います。そのようなことから、本日は、式典の様子をWebの同時配信で視聴しております。

さて、昨日は、2007年に第58回全国植樹祭が開催された苫小牧市で、当時の天皇皇后両陛下が植樹をされた樹木の手入れが行われ、私もオンラインで参加いたしました。

両陛下が植樹をされた、北海道の木であるアカエゾマツや、濃い花の色で知られるエゾヤマザクラなどが健やかに育っていることや、その時に記念植樹された約2万本の苗木が森となり、「苫東・和みの森」の愛称で親しまれ、道民やボランティアの方々の協力の下で大切に守り育てられていることを聞き、大変嬉しく思いました。

また、木や森林との触れ合いを通じて豊かな心を育む「木育」を、全国に先駆けて提唱し取り組んできた北海道で、百年先を見据えた森林づくりが道民との協働によりたゆみなく進められていることには、大きな意義を感じます。

森林は、国土の保全や水源のかん養、木材や特用林産物の供給などを通じ、私たちの暮らしに必要なものや豊かさをもたらすとともに、二酸化炭素の吸収源や生物多様性の保全の場を提供するなど、地球環境を守る上でも重要な役割を果たしております。このように、かけがえのない豊かな森林を後世へと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な務めでありましょう。

その意味から、本日表彰を受けられる方々をはじめ、日頃からそれぞれの地域において国土の緑化に力を尽くされている全国の皆様に敬意を表しますとともに、このような活動が今後も多くの人々に支えられ、一層発展していくことを期待いたしております。

おわりに、本大会のテーマである「つなごう未来へ この木 この森 この緑」にふさわしく、豊かな森林を育む取組が、北海道の地から全国へと大きく広がり、未来へと受け継がれていくことを祈念し、本式典に寄せることばといたします。